

令和5年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

吉備ボランティア養成研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、施設ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和5年5月20日（土）～21日（日）1泊2日

(2) 参加者

①募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人 50人

②参加人数

26人（高校生1人、大学生22人、社会人3人）

(3) 講師等

講義1「青少年教育における体験活動」

講師：青山 鉄兵 氏（文教大学 人間科学部人間科学科 准教授）

講義・演習1「自然体験活動の安全管理」

講師：井上 桂 氏（下関市深坂自然の森 森の家下関 所長）

説明1「青少年教育施設におけるボランティア活動」

報告：法人ボランティア2人（国立吉備青少年自然の家）

講義・演習2「ボランティア活動の技術」

講師：河本 潤（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）

講義2「ボランティア活動の意義」

講師：室 貴由輝 氏（岡山県教育庁 高校教育課高校魅力化推進室 室長
一般社団法人 やかげ小中高こども連合 共同代表）

講義3「青少年教育施設の現状と運営」

講師：妹尾 剛（国立吉備青少年自然の家 所長）

説明2「青少年教育施設におけるボランティア活動」

説明：藤本 昌克（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

(4) 企画・運営のポイント

- ① 開催については、例年広報から申込締切の期間が短かったため、1週間遅く開催時期を設定した。
- ② 広報については、7大学と2高校については訪問して直接広報を行った。
- ③ 各講義では、青少年の体験活動を実践・支援されている講師の方々に依頼して実践に基づいた講話を聴くとともに、職員からも具体的な説明を行った。また、オンラインを使用することで遠方の講師にも依頼することができた。
- ④ 法人ボランティア登録の増加のため、同時開催の自然体験指導者（NEALリーダー）養成事業の参加者も法人ボランティア登録の要件を満たせるカリキュラムに設定した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

5月20日（土）		5月21日（日）	
9:30	受付	6:15	起床・洗面・清掃
10:00	開講式	7:15	朝のつどい
10:30	講義1 「青少年教育における体験活動」	7:30	朝食
12:00	昼食	9:00	講義・演習2 「ボランティア活動の技術」
13:00	アイスブレイク	13:00	講義2 「ボランティア活動の意義」
14:00	講義・演習1 「自然体験活動の安全管理」	14:45	講義3 「青少年教育施設の現状と運営」
17:15	夕べのつどい	15:45	説明2 「青少年教育施設におけるボランティア活動」
17:30	夕食	16:45	閉講式
18:30	説明1 「青少年教育施設におけるボランティア活動」		
19:30	入浴・休憩		
20:30	情報交換会		
22:00	就寝		

(2) 活動の状況



【講義 1 「青少年教育における体験活動」】



【アイスブレイク】



【講義・演習 1 「自然体験活動の安全管理」】



【説明 1 「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【講義・演習 2 「ボランティア活動の技術」】



【講義 2 「ボランティア活動の意義」】



【講義 3 「青少年教育施設の現状と運営」】



【説明 2 「青少年教育施設におけるボランティア活動」】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：：69% やや満足：31%

(2) 参加者の声

- ① ボランティアや青少年教育に関する知識を学び、それぞれに対して新たな考え方、見方を得ることができました。青少年教育、施設、ボランティアが全て身近なものに感じられた良い時間だった。
- ② 指導者として気をつけるべきこと、目をつける点、多くのことを学ぶことができた。
- ③ 「体験で学べ」という言葉をよく聞くが、何をするのではなく、何を目的にするのかということが大切だと分かった。
- ④ 講義にもっと参加できる形だとよかった。

(3) 成果

- ① 広報を聞いて興味をもった方も多く、直接広報の成果が見られた。
- ② 自然体験指導者（NEALリーダー）養成事業の参加者も法人ボランティア登録の要件を満たせるカリキュラムに設定したことにより、当日法人ボランティア登録を決める参加者も見られたので効果があった。
- ③ 参加者全員が法人ボランティア登録をすることができた。

(4) 今後の課題

- ① 吉備ボランティア養成研修と自然体験指導者（NEALリーダー）養成事業の区別が分かりにくく、本人の意図していない方への申し込みが多かったため、開催要項や申込フォームに分かりやすく記載する。
- ② 開催時期をずらした結果、高校のテスト週間と重なり、高校生の参加が見込めなかったため、今一度開催時期を検討する。
- ③ 受動的な内容の講義が多かったため、アクティブラーニングを取り入れるなど参加者が主体的に講義に参加できる形になるように講師の方と打ち合わせをする。

担当：企画指導専門職 藤本 昌克